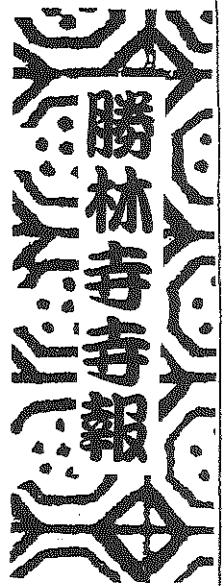


親鸞さまのことば



関東からひっきりなしに弟子グループの代表者の方々が、京都へ帰った親鸞様のところへ、遙々たずねてきました。教える上の疑問質問、派閥間の争いの訴えなど。親鸞さまはそれに丁寧に応対し、答える手紙も返しています。そのなかで親鸞さまは、これらはひとことでなく自分がつくった罪業として身を切るように思えてきたのだと思います。ことに実子「善鸞」のおこした事件など。

その晩年に、北関東から来た若い唯円（ゆいねん）の描いた親鸞さまのありのままのお姿。『歎異鈔』第二条のことばを聞いてみましょう。

あなたがたそれぞれ、はるばると十あまり

もの国境いを越えて、命がけで私を訪ねて来られたのは、ただひとえに極楽浄土に往生する道を問いただしたいという一心からです。

けれども、このわたしが「お念佛」のほかに往生浄土の道を知っているとか、また、その道を説いた書物などを知っているのではないかとお考えになっているのなら、それは大変な思い違いです。そういうことであるならば、南都（奈良）や北嶺（比叡山）にも優れた学僧たちが多くいらっしゃいますから、その高僧方にお会いになつて往生浄土の道筋をとくとお聞きになるのがよいと思います。

この親鸞においては、「ただお念佛して、阿弥陀さまに助けられるのである」という法

然さまのおことばをいただき、ひたすら、それを信じさせていただいているそればかりで

そのほかに、何かがあるものではありません

お念佛は、ほんとうに淨土に生まれる因（たね）なのか、また地獄に墮ちる行いであるのか、まったく私の知るところではあります

せん。たとえ、法然さまにだまされて、地獄へ墮ちたとしても、わたし、決して後悔など致しません。なぜかと云うと、他の行を勵

むことで仏になれるはずのわたくしが、念佛したために地獄に墮ちたというのであれば、それは、「だまされた」という後悔もあるで

しょうが、本来どのような行（きょう）も満足できません。なぜかと云うと、他の行を勵



鶏鳴狗盗（けいめいくとう）

中学一年のとき「十八史略」で習った『史記』の記事。戦国時代、孟嘗君が食客（いそ

うろう）三千人を引き連れて、険しい「函谷関」（かんごくかん）を越える戦況をワクワクしながら習った。鶏の鳴き声をさせて関所の兵士を混乱させ、混乱のうちに犬の鳴き声をして武器を盗ませる。敵を惑乱させそ

の隙に関所突破に成功した。孟嘗君の智略に大喝采した。日本の清少納言はこの歌になぞらえて「夜をこめて鶏のそら音ははかるとも世に逢坂の関はゆるさじ」（百人一首）と歌つてゐるのは有名。

そもそも、阿弥陀如来さまの「ご本願」が真実であるなら、それを伝えようとこの世に

お出ましになつたお釈迦さまの教えがいつわ

りであるわけはありません。お釈迦さまの教えが真実であるとするなら、その本願真実の

ここを中国で開闢（あらわ）してくださいさつた善導大師（せんどうだいし）さまの解釈

「観無量寿經疏」が偽りであるわけはありません。その善導さまを、「ひたすら善導さま

におすがりするだけ」と傾倒なさつた師法然さまのおことはがなんでも嘘いつわりであるなどということがありましようか。法然さまの

おことはが真実であるならば、この親鸞の申すことも無意味なことではないといえるのではないでしようか。

つきつめて申しあげるなら、愚かなわたしの信心は、これだけであります。

この上は、あなたがた、お念佛して往生を願われようと、また、お念佛をお捨てにならうとも、それぞれ々のお考査次第です。

このように親鸞さまは仰せになりました。

六月 勝林寺 予定

一日（土） 本覚寺 永代経

二日（日） 光顕寺 夏座法要

三日（月） 婦人会 奉仕作業

四日（火） 岸下真一宅 忌明法要

五日（水） 野村嘉宏宅 忌明法要

六日（木） 古田敬治宅 三回忌

七日（金） 長專寺 前住 三回忌

八日（土） 斎藤義弘宅 三回忌

九日（日） 法要進行委員会

一〇日（月） 西方寺 永代経

一一日（火） 福成寺 永代経

一二日（水） 納骨研修旅行

一三日（木） 納骨研修旅行

一四日（金） 納骨研修旅行

一五日（土） みのりを聞く会

一六日（日） 一七期連研 修了者大会

一七日（月） 組長・副組長研修会

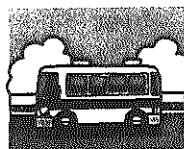
一八日（火） 信楽峻磨先生講義

一九日（水） おみがき奉仕

二〇日（木） 仲田たみ子宅 三回忌

二一日（金） 矢根 永井かめの様 八十八歳

（敬称略）



せひご参加ください

展望は、日本のエーゲ海といわれる牛窓！
そして、法然上人誕生寺にお参りします

二六日（水） みのりを聞く会

二七日（木） 修了者大会

二八日（金） 信楽峻磨先生講義

二九日（土） おみがき奉仕

三〇日（日） 仲田たみ子宅 三回忌

四月二十九日 保谷 岸下 正美様 六十七歳

四月三十日 矢根 永井かめの様 八十八歳

花の色は

「花の色は 移りにけりないいたずらに
わがみよにふる ながめしまに」

王朝平安時代を代表する女流歌人小野小町
が晩年、その美しさの衰えを嘆いた百人一首
のなかの有名な歌。

今にして思えば咲きほこった桜のようない
でやかな若き日の美しさは、思えばほんの一
瞬でありました。春の花に降る長雨をボンヤ
リと眺めていたそのあいだに、女の色香もい
つしかこんなに移り衰えてしまったことです
榮枯盛衰のはげしかったあの時代に生きた
おんなの悲哀が伝わって参ります。

同じようにその時代、だれが作者ともしれ
ないまま、庶民の間にひろまつた七五調の今
様式法文歌。仏教の教えをうたつた歌。

「いろは歌」。

色は匂へど ちりぬるを
わが世たれぞ つねならむ
有為の奥山 今日越えて
浅き夢みじ 酔ひもせず

色というものは桜の花の色です。あでやかに咲
いてた桜の花の色も、アッと云う間に散つて
(塵あくた)になつてしまつた。これがひと
の世のすがた。だれ一人として変わらずいつ
までも若くあることができようか。

この有為転変。障害も多い、険しい奥山のよ
うなこの人生を。明日といわず、さっそく今
日越え抜けよう。一瞬の快樂に酔つていな
いで。

「有為」。「有為の奥山」というのは、
「有為」は、いろいろな関係や条件の組み合
わせによって「仮につくられてあるもの」。
従つて「無常」なもの。すべてのものはあま
たの条件の組合わせによって出来ています。
わたしのこの体・命も、社会も世界もあり
とあらゆるものは数かぎりない無量の因縁の
くみあわせ。和合によつて仮に存在している
もの。だのにわたしたちは「これはわたしの
命」「これは変わらぬわたしの考え方」「家も
財産も地位も名譽も」何でも彼でも、自分の
ものわたし独自のものと固執し、なんでも自
己中心に固執(こじらう)して、我と彼、自と他を
比べ、結果、人と対立競争し差別し合い、戦

争して生きる。實に殺伐とした闘争の奥山に
まよいこんでいるわたし。

老いも若きも、明日と云わざ今日、今、氣

づき、この競争対立し争う世界から脱却する
みちを求めようではないか。それがお釈迦さ

まの教え仏教。とおしえる歌がありました。

あの豪華に咲いた桜の花の散り果てた今。

人事でなく、わたしの今日のいのちのありか

たを考えて見ようではありませんか。

最初「人間」はアフリカなどどこか類人猿か

ら枝分かれした何人かの人間女性から作りだ

され、ネアンデルタル人その他モンゴロイ

ド乃至アメリカインディアンなどに分歧しそれ

ぞれ独自の言語、文化を相互影響をしながら

変化発展していったと云います。

「私」のこの「いのち」が生み出されるため

には二十代前まで溯つてみても、なんと四億

六千五百万以上の人間「ご祖先」さまがい

なければならないことが分かります。そのう

ちの一人が欠けても今の私は存在しない。



「死」の迎えがた

東北大学名誉教授で内科医の吉永馨(八十
四歳)先生は永年みずからもホスピス運動に
携わつてきました。

雑誌のインタビューのおしまいに「先生ご自身、どのように最後を迎えるとお考えですか。」
といふ問いにこんなふうにこたえておられます。

【現代の科学でわかっていることは、生命が
(人間でいうと約60兆の細胞のなかにある)
遺伝子の働きで保たれているということです
よ。その遺伝子を作ったのも(働かせていい
るのも)すくなくとも私ではない。some
thing Great(大きな何か)。何

よ。その遺伝子を作ったのも(働かせていい
るのも)すくなくとも私ではない。some
thing Great(大きな何か)。何

か偉大なものが遺伝子を作り出し、司つてい
るところ)おもえない、とその神秘の働きに畏
敬の念を表しています。要するに遺伝子だつ
て、炭素・水素・酸素など、宇宙の物質から
できているわけです。それらが働いて人間が

生まれ、いのちが営まれる。終われば、また
バラバラの物質にもどっていく、つまり宇宙

さる五月六日に、出石・但東
が行われました。今年で二回目の開催です。遠近各地
区から集まつた約50名の子どもたちと保護者の皆さん、スタッフ、総勢70余名でお釈迦様のお誕生をお祝いしました。

医学・遺伝学の発達は今やこのようないの
ちの在り方まで教えてくれています。
その他、人類学、動物学、民族学、歴史学
乃至「宇宙力学」なども同様です。

どすん

佛教会の主催で「花まつり」が行われました。今年で二回目の開催です。遠近各地
区から集まつた約50名の子どもたちと保護者の皆さん、スタッフ、総勢70余名でお釈迦様のお誕生をお祝いしました。

さる五月六日に、出石・但東
が行われました。今年で二回目の開催です。遠近各地
区から集まつた約50名の子どもたちと保護者の皆さん、スタッフ、総勢70余名でお釈迦様のお誕生をお祝いしました。

佛教会の主催で「花まつり」が行われました。今年で二回目の開催です。遠近各地
区から集まつた約50名の子どもたちと保護者の皆さん、スタッフ、総勢70余名でお釈迦様のお誕生をお祝いしました。